

一般社団法人
大分県スポーツ学会
第10回学術大会

テーマ

大分県のスポーツのこれからを考える
～県民の健康・生活・人生を支えるスポーツとは～

大会長 高森 聖人 (公益社団法人 大分県作業療法協会 会長)

会 期 2018年12月16日 (日)

会 場 別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza 国際会議室

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

ごあいさつ



一般社団法人 大分県スポーツ学会 理事長
稲垣 敦 (大分県立看護科学大学 教授)

大分県スポーツ学会第10回学術大会を平成30年12月16日（日）に別府国際コンベンションセンターで開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当学会は、スポーツに関する知識と技術の研鑽を積み、会員相互の情報交換を通じて、大分県における健全なる青少年の育成とスポーツの人材育成を図ると共に、県民の体力向上、健康増進、スポーツ文化の醸成に寄与することを目的として平成22年の春に設立されました。そして、スポーツ救護ナース・救護員の養成・派遣・スキルアップ研修会の開催、学術大会やフォーラムの開催、メディカルマネージャーの養成、機関誌「スポーツおいた」の刊行等に取り組んで参りました。特に、スポーツ救護ナース・救護員の認定者数は、810名となりました。

今回の第10回学術大会のテーマは、「大分県のスポーツのこれからを考える：県民の健康・生活・人生を支えるスポーツとは」です。このテーマは当学会の設立の趣意そのものを問うテーマであり、今回が第10回記念大会という節目の大会なので、まさに今がこれまでの当学会の活動を振り返り、今後の方向性を考える時であります。また、オリンピック／パラリンピックの開催国では毎回、スポーツ関連の国際学術会議が開催されますが、2020年には横浜で開催されます。この会議のテーマは「多様な人々が共に生きる世界をめざして：体育・健康・スポーツ科学の貢献」“Contributing to a Sustainable World”です。このテーマも、当学会のビジョンや今回の学術大会のテーマと共通しています。当学会の理事を務めて頂いております大分県作業療法協会会長の高森聖人大会長には、本当にタイムリーなテーマをつけて頂き、心より感謝申し上げます。参加者の皆様におかれましても、この点を念頭において、一般演題やシンポジウムにおいて活発な議論をよろしくお願い申し上げます。

さて、スポーツ庁は10月22日にNCAA（National Collegiate Athletic Association, 全米大学体育協会）の日本版を創設し、名称をUNIVAS（一般社団法人大学スポーツ協会）に決定しました。この競技種目を超えた大学スポーツの統括組織は、今後、様々な活動をしていきますが、当学会がスポーツ救護ナース・救護員やメディカルマネージャーの養成をしている経験を活かして、UNIVASの安全安心に関わる事業に協力できればと考えています。

今年は大分トリニータが頑張り、6年ぶりのJ1昇格を決めました。来年は、大分でラグビーワールドカップが開催されます。当学会もスポーツ救護ナースの派遣等を通して、全力で応援します。スポーツは社会を元気づけるだけではなく、様々な、そして偉大な力があります。大分県スポーツ学会は研究だけではなく、スポーツを振興し、スポーツを通して人々の幸福と社会の持続的発展に寄与することを目指します。

最後になりましたが、第10回学術大会にご後援頂きました学協会や企業のご発展と参加者の皆様のご健勝を祈念し、また、開催にあたりご尽力を賜りました役員や学会事務局の皆様にご挨拶申し上げます。

ごあいさつ



第10回学術大会 大会長
高森 聖人 (公益社団法人 大分県作業療法協会 会長)

大分県スポーツ学会学術大会は、2010年の第1回大会以降、子どもからトップアスリートまでさまざまな人々が行うスポーツを、生涯スポーツやユニバーサルスポーツ、競技力向上のためのコンディショニング、コーチングなどあらゆる側面から捉え、スポーツに関するそのときどきのトピックスをテーマに開催してきました。

近年、我が国においては、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、国際的なスポーツイベントがより身近に感じられるようになり、県内においても健康志向の高まりと相まって各種スポーツへの関心が高まっており、2016年に改訂された「大分県スポーツ推進計画」をもとに各種スポーツ振興施策が推進されているところです。

そのような状況下において、本学術大会が第10回という節目を迎えることになり、今回は特定のスポーツ分野に限定せず、大分県のスポーツ全体を概観し、さまざまな取り組みや現状を振り返るとともに、これからのスポーツ振興のあり方や、また本学会が果たすべき役割や今後の方向性を考える機会にしたいと考え、「大分県のスポーツのこれからを考える ～県民の健康・生活・人生を支えるスポーツとは～」というテーマを掲げさせていただきました。

当日は、多数の一般演題発表のほか、基調講演でスポーツ行政にかかわる県の二つの組織からスポーツ振興の取り組みについてお話しいただいたあと、高体連、総合型地域スポーツクラブ、障がい者スポーツ、県議会というさまざまな立場の方にご登壇いただき、県民のスポーツの現状と課題について参加者のみなさまとともに共有したいと思います。

本学術大会が、県民の健康・生活・人生を支えるスポーツのさらなる発展につながれば幸いです。

座長・発表者へのご案内

1. 口述発表者

(1) PPT差替えについて

受付時間内にウイルスチェック済のUSBメモリを受付にご提出ください。混乱を避けるために、できる限り余裕を持って受付にお越しください。

(2) 次発表者席について

自座の開始時には会場内にご着席され、1題前の発表者の登壇時に次発表者席に着いてください。

(3) 発表時間について

発表時間は7分、質疑応答2分です。時間厳守をお願いします。

2. ポスター発表者

(1) ポスター掲示について

受付後、開会式前までに会場内の該当パネルに、各自ポスターを掲示してください。

(2) 発表について

時間中はポスター前に立ち、質問等にお答えください。

(3) ポスター撤去について

閉会後に撤去してください。会場撤去時に残っているポスターは大会側で処分します。

3. 発表演題について

(1) 学術大会当日、表彰規程に基づき選考委員会による審査を行い、「優秀発表賞」を授与します。

(2) 後日、本学会機関誌「スポーツおおいた」に発表要旨を寄稿していただきます。

4. 口演座長

(1) 担当の前座開始時（前座長登壇時）には次座長席に着いてください。

発表時間は7分、質疑応答2分で進行をお願いします。

プログラム

開 会 式	10:00~
-------	--------

理事長 稲垣 敦 挨拶
大会長 高森 聖人 挨拶

一般演題発表	10:05~11:50
--------	-------------

セッションⅠ 10:05~10:55 6題

座長：谷口 勇一（大分大学 教育福祉科学部 教授）
平川 史子（別府大学 食物栄養科学部 教授）

1. 10週間のバドミントン練習が女子大学生の身体組成、体力、骨密度に及ぼす影響について
吉村 良孝 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科
2. スポーツメディカルチェックで発見した高脂血症の例
清永 康平 別府大学大学院 食物栄養科学研究科 / 独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター
3. スポーツ整形外科における「管理栄養士によるスポーツ栄養サポート」の可能性
ー成長期スポーツ選手への介入に着目してー
寺山 絵未 医療法人 大場整形外科 / 大分スポーツリハビリテーションセンター
4. サプリメント分析認証プログラムの比較検討
伊藤 英明 公益社団法人 大分県薬剤師会 学校保健・体育委員会
5. 別府大分毎日マラソンに出場して～選手目線から見た救護対策法～
川崎 徹也 独立行政法人国立病院機構 別府医療センター 臨床工学技士（認定救護員）
6. 皮下脂肪と内臓脂肪の違い
島田 達生 大分医学技術専門学校

セッションⅡ 11:00~11:50 6題

座長：島田 達生（大分医学技術専門学校 校長）
高橋 隆一（大分県理学療法士協会 副会長）

1. 学校部活動は必ず存続させなくてはならないースポーツ社会学からの「警鐘」
谷口 勇一 大分大学 教育学部
2. 障害者支援施設<にじ>における社会的行動障害に対する集団競技の効果について
福澤 至 別府リハビリテーションセンター 障害者支援施設<にじ>
3. 運動教室が高齢者の認知機能に及ぼす影響について
佐藤 亜美 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科
4. 足関節・足部スポーツ傷害のアスレティックリハビリテーション
高司 博美 医療法人 大場整形外科

5. 発達運動学的視点からの「こどもの体幹トレーニング」
～赤ちゃんの動作で、体の支えと動きの土台を強くする

西原 清 宇佐整骨院

6. 大分県スポーツ学会認定スポーツ救護ナース・救護員養成システムの現況

栗秋 良子 社会医療法人敬和会 大分岡病院

ポスター発表

12:00~12:15

1. スポーツ救護活動における看護師としての関わりの検討

小原 優希 大分県スポーツ学会認定 スポーツナース / 日本健康運動看護学会認定健康運動看護師

2. 若年アスリートの胸郭出口症候群における短期術後成績

西崎 武文 独立行政法人国立病院機構 西別府病院 リハビリテーション科

3. 本校の障がい者スポーツへの取り組み紹介

日隈 武治 大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科

4. 障がい者スポーツへの関わりと今後の展望

宮野 元樹 公益社団法人 大分県理学療法士協会 / 医療法人恵愛会 中村病院

5. 5回スポーツ研修会 活動報告

大津留聖太 公益社団法人 大分県作業療法協会 学術局 学術研修部

6. 小学生における運動部・スポーツクラブ所属の有無と体幹保持機能との関係

河野 吉喜 医療法人 大場整形外科

7. スポーツ障害予防の取り組み～メディカルマネージャー制度を大分県から全国へ～

伊東 健太 医療法人 大場整形外科 / 大分スポーツリハビリテーションセンター / 一般社団法人 大分県スポーツ学会

8. 当院における腰椎疲労骨折と腰椎分離症の発症率の比較

石田 直也 医療法人 大場整形外科

9. 大分県立看護科学大学「健康増進プロジェクト」の活動について

稲垣 敦 大分県立看護科学大学

10. スポーツ救護ナース・救護員派遣調整の現況

小副川直子 社会医療法人敬和会 大分岡病院

11. 2泊3日の高地野外活動を通じた学生の心理、行動の変化 データマイニングによる評価

小池 貴行 大分大学 理工学部 福祉メカトロニクスコース

休憩

12:15~13:00

基調講演

13:00~13:50

司会：稲垣 敦（大分県立看護科学大学 健康運動学研究室 教授）

大分県におけるスポーツ振興の取り組みについて

野中 公二 大分県教育庁体育保健課 生涯スポーツ班 指導主事兼主幹
森崎 宣和 大分県企画振興部芸術文化スポーツ振興課 国際スポーツ誘致・推進班 主幹

シンポジウム

14:00~16:00

司会：大場 俊二（医療法人 大場整形外科 院長）
高森 聖人（公益社団法人 大分県作業療法協会 会長（大会長））

大分県民のスポーツの現状と課題

シンポジスト

蓑田 智通 大分県高等学校体育連盟 会長
丸山 順道 大分県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（SCおおいたネットワーク）会長
堀川 裕二 大分県障害者スポーツ指導者協議会 相談役（前会長）
森 誠一 大分県議会議員

表彰式

16:00~16:10

優秀発表賞

閉会式

16:15~

次期大会長挨拶 島田 達生 一般社団法人 大分県スポーツ学会 理事 / 大分医学技術専門学校 校長・大分大学 名誉教授
安東 鉄男 一般社団法人 大分県スポーツ学会 理事 / 公益社団法人 大分県柔道整復師会 理事



大分県における スポーツ振興の取り組みについて

野中 公二

大分県教育庁体育保健課 生涯スポーツ班 指導主事兼主幹

本県では、2020年東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019の大分開催など、県民のスポーツに対する意識や期待は高まりを見せています。

こうした中、本年3月には県議会による「大分県スポーツ推進条例」が公布・施行され、より多くの県民がスポーツに親しむことのできる環境づくりや、競技力の向上、スポーツによる地域の活性化等を更に促進するため、社会全体でスポーツを推進していくことが法制化されました。

本県においては、平成21年度に策定、平成28年度に改訂した「大分県スポーツ推進計画」の下、「県民総参加で本県のスポーツ力を高め、明るく元気な大分の創造」を基本理念として、各種スポーツ振興施策を推進しています。

学校体育の充実に向けては、体育授業の工夫改善や「一校一実践」として学校全体での体力向上の取り組みを行っ

ています。また、地域のスポーツ振興の中心的な役割を果たす総合型地域スポーツクラブにおいては、新たな会員確保に向けた取り組みのサポートを、さらに競技力向上対策では、国民体育大会での目標達成に向け、関係競技団体が取り組む選手強化をサポートしています。そして来年度4月には大分スポーツ公園内に、大分県立武道スポーツセンターがよいよ竣工するなど推進計画に沿った具体的な施策に取り組んでいるところです。

今後も「健康・体力・人づくり」、「活動の場づくり」、「システムづくり」、「基盤づくり」の4つのテーマの下、県民の誰もが、スポーツを通じて健康で活力ある豊かな生活を営むことができる大分県の実現を目指し各種施策を推進してまいります。



大分県における スポーツ振興の取り組みについて

森崎 宣和

大分県企画振興部芸術文化スポーツ振興課
国際スポーツ誘致・推進班 主幹

東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致

大分県企画振興部 芸術文化スポーツ振興課 国際スポーツ誘致・推進班

① 東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致

2014年8月1日 企画振興部芸術文化スポーツ振興課内に国際スポーツ大会事業推進班を設置

事前キャンプ誘致とはなんぞや？

実態調査

大分県では

- 2002年FIFAワールドカップの事前キャンプ地 日田市 (旧中津江村) →カメルーン、佐伯市 →チュニジア

他県では

- 2007年大阪世界陸上事前キャンプ誘致
- 2008年北京オリンピック事前キャンプ誘致

当は大分県では

- 2008年大分国体開催

事前キャンプ ⇒ 本番を想定し大会で最高のパフォーマンスを出せるよう、選手村に入る直前の約10日間、時差調整を兼ねて行う

求められる競技施設 ⇒ コンバクトにまとまっている大学の競技施設 (例：陸上競技場、ウエイトトレーニング場、プール、体育館が隣接)

誘致の傾向 ⇒ 人脈によるところが大きく、1度事前キャンプを受け入れ、関係性を構築すると、再度キャンプを行う可能性が高い

② 県内競技施設調査

市町村、競技団体の意向と競技施設の実態調査

事前キャンプ誘致が出来る競技施設は県内にいくつあるか？

実態調査

各競技 I F の技術要件確認

I F の技術要件とは…東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が定めた東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプを推薦できる基準

適合確認

I F 基準適合施設(10自治体24施設)

- ①大分市…大分市宮陸上競技場、コンパルホール
- ②別府市…青山プール、別府総合体育館、野口宗総合運動場、実相寺サッカー競技場
- ③中津市…永常運動公園、三光総合運動公園、中津市総合体育館
- ④日田市…養生スポーツセンター、日田市総合体育館
- ⑤佐伯市…佐伯市総合運動公園陸上競技場、佐伯市総合運動公園多目的広場
- ⑥杵築市…杵築市文化体育館
- ⑦宇佐市…宇佐市平成の森公園多目的運動広場、はちまんの郷宇佐体育館
- ⑧国東市…アストくにさきアグリホール
- ⑨玖珠町…メルヘンの森スポーツ公園
- ⑩大分県…大分スポーツ公園総合競技場、大分スポーツ公園サッカー・ラグビー場、別府港北浜コッパルバー、大洲総合運動公園テニスコート、大分県立総合体育館、大分県立総合体育館フェンシング場

③ 誘致活動

まずは人脈づくり、可能性を広げる！！

プレゼン資料

- 大分県にゆかりのあるナショナルコーチ (宗猛氏・マラソン、江村宏二氏・フェンシング、長野修士氏・テコンドーなど)
- 大分県とつながりがある国の大使館 (ポルトガル、チェコ、ニュージーランドなど)
- 各中央競技団体 (日本陸上競技連盟、日本フェンシング協会、日本ラグビー協会など)
- チームや選手とつながりがあるメーカー (ミスノ、アシックス、ヨネックスなど)
- 国内で開催される国際大会 (セイコーゴールデングランプリ陸上大会、柔道グランドスラム東京大会、アジア・ユース・ジュニアウエイトリフティング選手権など)
- 外国で開催される国際大会参加国 (2015年世界陸上北京大会)

成功事例

2015年世界陸上北京大会事前キャンプ誘致

- ①キャンプ誘致プレゼン資料を作成 ※資料④⑤
- ②日本陸上競技連盟を通じて参加国へセールス ⇒ 陸連ホームページ掲載依頼 会議でのプレゼン資料配付依頼
- ③メーカーを通じて契約国へセールス、独自で参加国へメール送信
- ④メール、電話で問い合わせあり

カナダ ⇒ 空港からのアクセスが悪い ⇒ ×
ニュージーランド ⇒ 県内競技施設の視察を受けただがコンバクトさが無い ⇒ ×
ポルトガル ⇒ トレーナーを派遣してのサポート ⇒ ○

誘致成功 ⇒ ※資料⑥⑦⑧

④ An Invitation to
プレゼン資料の参考例①

Oita

Why not hold your training camps in Oita Prefecture?
August 2014

Oita Prefecture

⑤ Oita Sports Park (Oita Bank Dome and more) Oita Prefecture

プレゼン資料の参考例②

[Oita Bank Dome]

- The pitch is 107m x 71m of natural turf. The track is an officially designated Type 1 Track and made out of all-weather material (the lanes are 400m x 9).
- There is an indoor practice area that features lanes of 120m x 4, and 4 toilets for athletes. It is also equipped with a changing room, training room, and meeting room.

[Sub-Stadium ("Daigin" Grounds)]

- Officially designated Type 3 stadium. Paved with all-weather suitable material. There is a 6 lane track (the straight track is 8 lanes) with a 400m circumference. There is also an infield made of natural turf.

[Area for Field Events ("Daigin" Field)]

- The stadium has an area especially designed for field events. There are 2 pits for shot-put, 1 pit for javelin, 1 pit for discus and 1 pit for the hammer throw.

⑥ 世界陸上2015北京大会 ホルトガル陸上代表(三段跳・砲丸投)チーム大分キャンプ①

事前キャンプの概要

ポルトガル陸上代表(三段跳及び砲丸投)チームの概要

選手 ネルソン・エボウ (男: 三段跳、2008年北京オリンピック金メダリスト)
バトシヤ・マモナ (女: 三段跳、2012年ベルリン欧州選手権銀メダリスト)
スカー・コスタ (女: 三段跳)
ヴァンコ・アナトワ (男: 砲丸投)

スタッフ コーチ等4名 計8名

キャンプ期間 平成27年8月6日(火)~18日(火) 13日間

キャンプ場所 大分県行田町 (大分市構内)

ポルトガル陸上選手団集合写真

事前キャンプ中の交流事業

歓迎セレモニー (8/6)

陸上教室 (8/7)

⑦ 世界陸上2015北京大会 ホルトガル陸上代表(三段跳・砲丸投)チーム大分キャンプ②

歓迎レセプション (8/10)

県内観光 (高崎山、うかまこ、地獄廻り) (8/11)

陸上教室 (県代表選手へ個別レッスン) (8/17)

⑧ 世界陸上2015北京大会 ホルトガル陸上代表(三段跳・砲丸投)チーム大分キャンプ③

ポルトガル陸上選手団練習前後の様子

ポルトガルチームの北京大会成績

三段跳
ネルソン・エボウ選手~決勝30位で銅メダル獲得、バトシヤ・マモナ選手~予選A組8位で予選落ち、スカー・コスタ選手~予選B組記録なしで予選落ち

砲丸投
ヴァンコ・アナトワ選手~予選A組14位で予選落ち

ポルトガル選手のためのウェブサイト

⑨ プレ事前キャンプの積極的な受入
東京2020大会の事前キャンプ地で大分を選んでもらう!!

受入のメリット

- 受入体制の構築
- 施設整備の改善
- 受入によるキャンプ地大分の情報発信
- 交流事業による競技普及や競技力向上

誘致活動

プレ事前キャンプ実施状況 (6市13件)

- ①ポルトガル代表選手の北京世界陸上事前キャンプの実施(大分市) (2015.8/6~18)
- ②フェンシングワールドカップグランプリ合同事前キャンプの実施(大分市) (2016.3/7~22)
- ③フェンシングワールドカップ・サマーキャンプの実施(日田市) (2016.8/31~9/9)
- ④フェンシングワールドカップグランプリ合同事前キャンプの実施(大分市) (2017.3/13~21)
- ⑤フィジー女子代表選手のワールドラグビー女子セvens事前キャンプの実施(大分市) (2017.4/12~18)
- ⑥日本、モンゴル代表選手のテコンドー合同キャンプの実施(宇佐市) (2017.7/17~26)
- ⑦フェンシングエベ・国際キャンプの実施(日田市) (2017.9/8~20)
- ⑧韓国代表選手のウエイトリフティング事前キャンプに実施(国東市) (2017.11/2~17)
- ⑨フェンシングサールW杯無観観大会事前キャンプの実施(大分市)(2018.6/30~7.17)
- ⑩フェンシングエベW杯無観大会事前キャンプの実施(日田市)(2018.7/2~7.14)
- ⑪パラリンピック・パワリフティングラオス代表アジア・オセアニアオープン選手権事前キャンプの実施(別府市)(2018.8.31~9.7)
- ⑫パラリンピックパラバドミントンマレーシア代表事前キャンプの実施(中津市)(2018.9.1~7)
- ⑬ワールドラグビーセvensシリーズフィジー代表事前キャンプの実施(大分市)(2018.11/5~11)

⑩ プレ事前キャンプの積極的な受入の成果

継続的なプレキャンプの受入が実を結ぶ！！

協定書締結

東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプの協定書締結（5自治体5件）

- ①フェンシングサークル競技合同事前キャンプに関する協定書締結式(大分県・大分市) (2017.12/19)
- ②パラリンピック・パワーリフティング・ラオス代表事前キャンプに関する協定書締結式(大分県・別府市) (2018.3/26)
- ③フェンシングエベ競技合同事前キャンプに関する協定書締結式(大分県・日田市) (2018.5/18)
- ④2020年マレーシアオリンピックチームの事前キャンプに関する覚書締結式(大分県・中津市) (2018.7/2)
- ⑤2020年東京オリンピックポルトガル陸上競技代表チームの事前キャンプに関する協定書締結式(大分県・大分市) (2018.10/4)

↓

今後の取り組み

- 締結国のプレ事前キャンプの受入と事前キャンプの受入準備
- 事前キャンプ受入のための施設整備を改善
- これまで誘致活動した国が大分で事前キャンプ実施するか意向を確認
- 東京オリ・パラ競技大会終了後のレガシーとしてのスポーツ合宿誘致へ移行



⑪ レガシーとしてのスポーツ合宿誘致

東京オリ・パラ競技大会終了後、大分に何が残せるか？

2002年FIFAワールドカップでカメルーンの前キャンプを誘致した日田市(旧中津江村)の大会終了後のスポーツ合宿の盛り上がりを見返せるか？

レガシーづくり

これまでの取り組み

- ①スポーツツーリズムガイドの作成（ワンストップサービス）※資料⑫
- ②大分県スポーツ競技用具等整備促進事業 ※資料⑬
- ③東京オリ・パラ事前キャンプ誘致に関連したスポーツ合宿誘致
 - ・青山学院大学陸上競技部、法政大学重量挙げ部、GMOアスリート陸上競技部など
- ④スポーツ合宿についての市町村担当者研修会の開催 ※資料⑭

オリ・パラ事前キャンプのレガシー

- 構築されたキャンプ受入体制
- 充実した施設整備の有効利用
- 受入によるキャンプ地大分の情報発信
- 交流事業による競技普及や競技力向上



⑫ 大分スポーツ合宿ナビ

これまでの取り組み①（スポーツツーリズムガイドの作成）

大分県内のスポーツ合宿をワンストップサービス！！

大分県スポーツ ツーリズムガイド

「スポーツ合宿をするなら大分県！！」
今、大分県が強い！！



⑬

これまでの取り組み②（スポーツ競技用具等整備促進事業）

- 中津市・永添運動公園⇒7人制ラグビー（コーナーフラッグ28本）
- 日田市・日田市総合体育館⇒フェンシング（アルミビスト1台、一体型審判器2台）
- 宇佐市・はちまんの郷宇佐体育館⇒テコンドー（マット3面）
- 国東市・アストくにきアグリホール⇒ウエイトリフティング（プラットフォーム5台、女子用バー8台、スクワットスタンド6組、セカンドラック3組、男子競技用バー4本、公式競技用ラバーディスク30枚プラットフォーム3台）

これまでの取り組み③（東京オリ・パラ事前キャンプ誘致に関連したスポーツ合宿誘致）

- 青山学院大学春季大分キャンプ
⇒大分スポーツ公園総合競技場及び周辺ロードコースで実施（2016年～2018年の3月、箱根駅伝4連覇中）
- 法政大学重量挙げ部⇒国東市ウエイトリフティング場で実施（2017年8月）
- GMOアスリートキャンプ
⇒佐伯市総合運動公園陸上競技場及び周辺ロードコースで実施（2018年1月）



⑭

これまでの取り組み④（スポーツ合宿についての市町村担当者研修会の開催 2018.6.29）

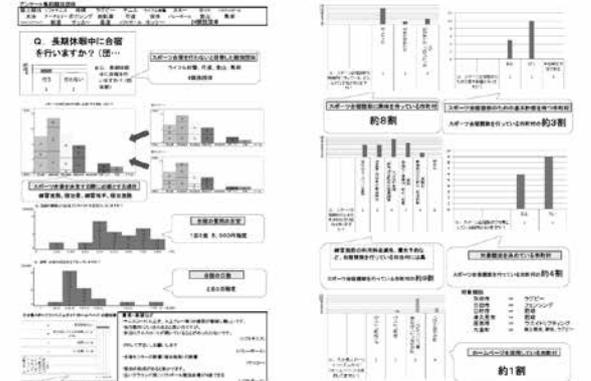
- 参加者
市町村オリ・パラ事前キャンプ、スポーツ合宿担当者
県振興局スポーツ合宿担当者
- 講演
①スポーツを通じた地域活性化（株式会社ますの井 代表取締役社長 角田英之氏）
②限界集落の小さな挑戦（竹田市久住町白丹地区 丸山生活改善センター運営委員 足立達哉氏）
- 報告
①テコンドー競技キャンプ宇佐について（宇佐市）
②韓国ナショナルチーム、法政大学重量挙げ部の合宿の受について（国東市）
③スポーツ合宿実態調査報告（大分県）※資料⑮
- 意見交換会




⑮

スポーツ合宿に関するアンケート集計（競技団体）

スポーツ合宿に関するアンケート集計（市町村）





日本一のおんせん県おおいた 味力も満載



日本一のスポーツ合宿県おおいた
おんせんで回復！！



高体連の役割・取組・課題等について

蓑田 智通

大分県高等学校体育連盟 会長

大分県高等学校体育連盟は、大分県内高等学校体育の健全な発展を図ることを目的とし、学校体育の振興に関する調査、研究及び建議や体育大会及びその他体育に関する各種行事の開催等を主な事業としている。

また、高体連は県内公立高等学校66校（全日37、定通5、分校3、私立14、特別支援7）をもって組織し、理事会、評議員会の開催や競技専門部（陸上競技他34競技）を置いて活動している任意の団体である。

運動部活動は、学校教育活動の一環として行われており、生徒指導も含め、学校教育の中で、大きな役割を果たしている。また、スポーツに興味関心を持つ生徒が、スポーツの楽しさや喜びを味わい、体力の向上や豊かな人間性の育成にも極めて効果のある活動でもある。

現在、少子高齢化や教員の多忙化、運動部活動のあり方など多くの課題が山積している中で、今回、スポーツ学会

に於いてスポーツ振興に関わる県行政をはじめ、県内のスポーツ活動に関わる方々が、一堂に会し、県民のスポーツの現状や課題について議論することは非常に有意義なことであり、高校生を取り巻くスポーツ環境が変化する中で、高体連の役割や取組、課題等について下記3点に絞り、お話できればと思っている。

- 1 高体連専門部（35専門部）の存続
- 2 指導者の資質向上、確保及び育成
- 3 運動部活動のあり方（体罰の根絶、運動部活動の指導ガイドライン等）

今回、このような貴重なシンポジウムに参加させていただき、高体連の現状等お話しさせていただくことは、誠にありがたくお礼申し上げますと共に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



「大分県民のスポーツの現状と課題」 について

丸山 順道

SCおおいたネットワーク 会長

SCおおいたネットワークは、県内44の総合型地域スポーツクラブ全てが加入し、スポーツをキーワードとして、それぞれの地域において「健康づくり」「仲間づくり」「生きがいづくり」を目標として活動しています。県内の全市町村に一つのクラブが存在しています。

活動の主なものは、高齢者も含めた一般の方々が参加する各種教室、子どもたちの健全育成を主眼としたサッカーをはじめとしたサークル活動などを展開しています。最近では、障がい者も含めたユニバーサルスポーツを取り入れた教室や大会も実施を始めています。

しかしながら、その認知度は、まだまだ低く、県内の会員の総数は、約17,000名程と会員数は、徐々に増えているものの急激な増加とは言えません。スポーツ庁が示した「スポーツ基本計画」にあるスポーツ実施率の増加目標を達成するためにも、なお、一層の啓発活動が必要と考えています。

さて、現在のSCおおいたネットワークの活動ですが、

特に障がい者を含めたユニバーサルスポーツの普及について取り組んでいます。卓球バレーの指導者講習会を3年間実施しました。その結果、県内では、福祉施設において地域子ども達とともに卓球バレーの交流会を始めているクラブや高齢者の卓球バレーの教室を開設しており、その中でもぐもぐタイムを設けて、仲間づくりの場として「体の健康」だけでなく「心の健康」も更に地域コミュニティの活性化にもつながる活動と考えています。また、本年も実施する総合型クラブ交流会においては、スポーツ推進委員と連携したブースや県立看護科学大学と連携したブースを設けるなど、スポーツを核としてスポーツに関係する団体との連携を進められればと考えています。今後は、スポーツを核として関係する各種団体が健康や仲間づくりなど有機的に連携していく必要があるのではないかと思います。

それぞれの専門分野があることから、俗に言われる「餅は餅屋」でお任せしてうまく連携・協働できる組織の構築も必要性が問われる時なのかとも思います。

シンポジウム

大分県民のスポーツの現状と課題



「大分県民のスポーツの現状と課題」 について

堀川 裕二

大分県障害者スポーツ指導者協議会 相談役（前会長）

2008年に行われた「第8回全国障害者スポーツ大会」から10年が経ちました。大会の数年前から13の正式競技（個人競技6、団体競技7）において選手強化が取り組まれ、大会ではそれなりの成果を残すことが出来ました。そして、大会に前後していくつかの競技において県単位の競技団体が設立され、競技の普及振興と強化育成を行って来ました。

10年が経過した今、全ての競技が上手く進んでいるわけではなく、殆ど活動がなくなってしまった競技もありますが、2020年の東京パラリンピックの実施が決定してからは、パラリンピック実施競技を中心に再び盛り上がりを見せつつあります。一部の競技ではジュニア層を中心とした選手発掘イベントや障害者スポーツ啓発イベントも頻繁に行わ

れていますが、パラリンピック実施競技に参加可能な障害者が限られた範囲であることは否めません。

そしてもう一つ、2011年のスポーツ基本法制定からの変化があります。50年振りに改正されたこの法律では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらずスポーツをする権利が保障されています。今まで障害者スポーツに関わる機会が少なかった市町村のスポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの皆さんが、障害者スポーツの入口として、誰もが参加出来るユニバーサルスポーツに関心を深めて来ています。そんな中で、国内外で特に注目されているのが、大分大会でオープン競技として行われた卓球バレーです。



第8回全国障害者スポーツ大会・オープン競技「卓球バレー」決勝



「大分県民のスポーツの現状と課題」 について

森 誠一
大分県議会議員

1961年、東京オリンピック開催前に「スポーツ振興法」が制定され、その後のスポーツ人口の増加や国際化など社会状況が変化する中で、2011年には振興法が全面改正され「スポーツ基本法」を施行。2012年にはスポーツ基本計画が策定され、2020年のオリンピックパラリンピックなど将来を見据えた計画が掲げられた。

また、2015年にはスポーツ庁が設置され、複数の府省にまたがるスポーツ行政が一元化され、健康増進、地域活性化、競技力向上など多様な施策の実施が可能となったとされている。

一方、地方行政におけるスポーツ施策を見ていくと、2004年文部科学大臣は中央教育審議会に「地方分権時代における教育委員会のあり方」について諮問。教育制度分科会では特に「首長と教育委員会との連携の在り方」についての議論がなされ、「スポーツ政策を教育委員会だけで所管することは困難である。」とし、これらの議論を受けて、2007年の中央教育審議会の答申では「教育委員会の所掌事務のうち、学校における体育を除くスポーツに関する事務は、地方自治体の判断により、首長が担当できるものとす

る。」とされ、答申を受けて、法改正が行われ、スポーツ行政の管理執行を首長に移管することが可能となった。

スポーツを学校教育・生涯学習といった分野から発展させ、例えば観光振興などのまちづくり分野と連携する体制構築を行う自治体が増加しており、都道府県では、平成28年度、教育委員会から知事部局への移管は53.2%となっている。

また、平成29年から大分市では「大分市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例」を改正し、「スポーツに関すること（学校における体育に関することは除く）は、市長が管理し、及び執行するものとする。」とし、企画部が所管することとなった。

本年3月に制定された大分県スポーツ振興条例では県民の誰もが、それぞれのライフステージに応じて、スポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を味わいながら、健康で活力ある豊かな生活を営むことのできる大分県の実現をめざすとしている。大分県としてスポーツ行政について将来に向けてどのような姿勢で取り組んでいくのか、皆さんと議論させていただきたい。

10週間のバドミントン練習が 女子大学生の身体組成、体力、骨密度に 及ぼす影響について

○吉村 良孝、佐藤 亜美

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

【目的】

本研究の目的は、10週間のバドミンントンの練習が女子大学生の身体組成、体力、骨密度に及ぼす影響について検討することである。

【方法】

対象者は特に運動習慣のない健康的な女子大学生9名、測定項目は、身体組成、体力・骨密度測定を行なった。練習内容は、1回の練習を75分とし、週に2回行った。練習期間は10週間であった。

【結果】

練習期間前後で有意な差が認められたものは、SOS、握力右、閉眼片足立ち時間であった。

【考察】

握力右と閉眼片足立ちが有意な高値を示した要因としては、全員右利きでラケットを右手で握っていたこと、コート内をフットワークで移動し、素早い動きが必要となり、体重移動やバランスの維持が要求されることが考えられた。骨密度のSOSに影響を及ぼした要因としては、練習中の踏み込みによる足底への衝撃負荷が考えられた。バドミントン練習は若年者の骨密度を高める運動として適しているのではないかと考えられた。

スポーツメディカルチェックで 発見した高脂血症の例

○清永 康平¹⁾ 2)、平川 史子¹⁾、松田 貴雄²⁾

1) 別府大学大学院 食物栄養科学研究科

2) 独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター

【はじめに】

メディカルチェックにおいて前年度と比較して著しい高脂血症を認め、男性ホルモンの低下が見られた症例を経験したので報告する。

【症例】

34歳男性 競技：競輪

以前に練習にて落車、頭部外傷の既往がある。メディカルチェックの際、脱力感を訴えていた。総コレステロールが314mg/dL（昨年213）と高値を示し、総テストステロン値78.4ng/dL（昨年326.9）と著しい低下があった。甲状腺機能異常を疑ったが、HOMA-R2.96とインスリン抵抗性が確認された。メトホルミン投与にて総コレステロール236mg/dL、総テストステロン424.6ng/dLと改善し、脱力感が消失し、競技成績も改善した。

【考察】

アスリートは体調不良があっても、練習が足りないなど疾患に結びつけて考えない傾向にある。メディカルチェックを定期的に行い、体調管理に役立てることを勧める。

スポーツ整形外科における「管理栄養士によるスポーツ栄養サポート」の可能性 ー成長期スポーツ選手への介入に着目してー

○寺山 絵未、高司 博美、大場 俊二 (MD)

医療法人 大場整形外科
大分スポーツリハビリテーションセンター

【目的】

当院は2013年より、管理栄養士による栄養サポートを運営している。

今回、「成長期スポーツ選手への栄養サポート」の取り組み・結果・現場での課題をまとめたので報告する。

【対象・方法】

2013年11月～2018年10月の約5年間、当院にて疲労骨折の診断を受けた、または医師や理学療法士により介入が必要と判断した成長期スポーツ選手を対象に、栄養アンケートを実施。管理栄養士が10分の無料相談・レクチャーを行い、希望があれば予約制の有料サポートとして継続した。

【結果・考察】

アンケートによる介入を行い、年間平均約230件のスポーツ栄養相談があった。

しかし今回の実践では、有料サポートを受けた対象者のほとんどが情報提供のみ、または家庭の事情や、治療の通院期間終了を背景に継続困難となるケースが目立った。

外来通院は保護者との来院も多く栄養サポートに適した環境であり、さらにフォロー体制を強化していきたいと考える。

サプリメント分析認証プログラムの比較検討

○伊藤 英明¹⁾、松尾 成真¹⁾、河村 聡志¹⁾、
中島 美紀¹⁾、首藤 典利²⁾、山田 雅也¹⁾、
荘司 一茂¹⁾、佐藤 英隆¹⁾、友成 朗¹⁾、
安東 哲也¹⁾

公益社団法人 大分県薬剤師会

1) 学校保健・体育委員会、2) 薬事情報室

【目的】

JADA以外でも成分分析を行いメーカー独自に禁止物質が含まれていないことを認定していたり、第三者機関で認定を行ったりしているサプリメントもあります。

そこでサプリメント分析認証プログラムについて内容の比較検討を行ったので報告する。

【方法】

JADAサプリメント分析認証プログラム以外で把握している①INFORMED-CHOICE、②TSPプログラム、③FQSCマーク、④BSCG、⑤ドーピングガードについて、ホームページ及び問い合わせを行い、検査対象の物質数、検査頻度を比較した。

【結果】

検査対象の物質数と検査頻度は以下であった。

- ①160品目、認証取得時と毎月1回ランダムで抜き取り分析を実施
- ②485品目、認証取得時
- ③25品目、認証取得時と毎回の生産時
- ④485品目、認証取得時とロット毎
- ⑤99品目、認証取得時

【考察】

どれもドーピングにならないことを100%保証するものではないが、このような認証がサプリメントを選択する際の一つの条件とできる可能性がある。

別府大分毎日マラソンに出場して ～選手目線から見た救護対策法～

○川崎 徹也¹⁾、森口 奏相²⁾

独立行政法人国立病院機構 別府医療センター

1) 臨床工学技士 (認定救護員)

2) 救急看護認定看護師 (認定救急ナース)

別府大分毎日マラソン大会は今年で第67回大会を迎えた。オリンピック日本代表選手選考競技会でもある大会である。第60回大会 (平成23年) から一般市民ランナーも参加できるようになった。日本全国や世界から約3400人が集結し、市民ランナーとしては憧れの舞台である。公認の一般マラソン大会で3時間30分切らないと出場権をもらうことができない。今回2回出場していずれも完走したが、出走中様々な光景を見て救急車のサイレンが何度も鳴り、歩道で倒れているランナーを何人も見た。認定救護員であったが選手でもあり何もできなかった。一般マラソン大会では救護ランナーはいるが、大きな大会となると救護ランナーがいない。特にマラソンはいつ心肺停止になるか分からないスポーツである。ランナーで救護する知識や力走できる救護員は少ないが、大きな大会でも救護ランナーが必要であると思われる。今回、選手目線から見て思ったことを紹介したい。

皮下脂肪と内臓脂肪の違い

○島田 達生¹⁾、安東 鉄男¹⁾、千葉 政一²⁾

1) 大分医学技術専門学校

2) 大分大学医学部分子解剖学

肥満は、エネルギー摂取と消費のアンバランスにより体内の過剰な脂肪組織が蓄積した状態であり、蓄積する部位により皮下脂肪と内臓脂肪に分類される。

皮下脂肪組織は保温、クッション、水分の貯蔵庫として重要な役割をはたしている。内臓脂肪組織は、代謝活性が皮下脂肪よりも高く、脂肪合成も分解も速やかに行われると言われている。一般に、皮下脂肪よりも内臓脂肪の蓄積の方が心血管疾患発症に密接に関わっていることは明らかである。しかしながら、皮下脂肪組織と内臓脂肪組織の形態的差異を調べた研究は、極めて少ない。

本研究は、C57BL正常マウスとKKAy肥満マウスを使って、皮下脂肪細胞と内臓脂肪細胞の立体像を提供する走査電子顕微鏡下で両者の形態差異を調べる。さらに、最近注目されている異所性脂肪の心臓における分布と形態を調べ、その意義についても考察する。

学校部活動は必ず存続させなくてはならない—スポーツ社会学からの「警鐘」

○谷口 勇一

大分大学 教育学部

「働き方改革」の時世、教育界においてもまた、その流れには抗えそうもない。教員の過重労働の改善は必須であるものの、その原因を部活動にのみ向けられては困る。部活動は世界に誇るべきわが国の教育制度である。わが国におけるスポーツの普及は部活動の存在なしには語れない。部活動というスポーツを通じた教育機会は、生徒たちの良好な心身の発達、そしてまた、教師たちの「成長」にも大きく貢献してきたことを看過してはならない。

スポーツ庁は、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(2018)を発表した。そこでは、活動日数・時間等の軽減が掲げられ、本県においても概ね順守する形で事が進められつつある。それはよい。但し、教員の「働き方改革」を契機とし、部活動の脱学校化の企みが見え隠れする点がスポーツ社会学的には見逃せない。教育における部活動の存在意味に鑑みつつ、スポーツ庁の動向を批判的に検討してみたい。

障害者支援施設<にじ>における社会的行動障害に対する集団競技の効果について

○福澤 至、古本 節子

別府リハビリテーションセンター 障害者支援施設<にじ>

【背景】

障害者支援施設<にじ>は、高次脳機能障害による社会的行動障害を有する利用者に、「卓球バレー」を用いた集団訓練を実践している。その効果について考察を加え報告する。

【取り組み】

<にじ>は、脳卒中や頭部外傷の後遺症者の自立訓練、就労移行支援を実践している。2017年9月より、社会的行動障害や重度の身体障害を有する利用者を対象にした「卓球バレー」の時間を設定した。

【結果】

開始から2回目以降の「卓球バレー」の時間において、社会的行動障害を有する数名の利用者の行動に、社会性が向上した変化を認めた。

【考察】

卓球バレーは競技スペースや自分の守備する範囲が明確で、安心して参加しやすい特性がある。さらに集団競技で快刺激を得た後は、参加を継続するために「社会性を保たねばならない」という適応的な変化が生じやすいと推察している。社会的行動障害に対し、集団競技が社会性の向上に効果的な面がある事を示唆したと考える。

運動教室が高齢者の認知機能に及ぼす影響について

○佐藤 亜美、吉村 良孝

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

【目的】

本研究の目的は、地域の高齢者を対象に行った月1回の運動教室が、認知機能に及ぼす影響について検討することである。

【方法】

対象者は、地域在住の高齢者16名である。運動教室は月に1回の頻度で行い、全部で9回実施した。運動内容は、ラダートレーニング、マルチタスクトレーニングが中心であった。

【結果】

MMSE-Jの得点で、27点以上群と27点未満群に分けて検討した。その結果、介入前の両群の得点で有意な差が認められ、介入前後では、27点未満群の得点が介入前と比較して介入後に有意な高値を示した。

【考察】

本研究の結果より、月に1回という少ない頻度であっても、運動の介入が認知機能へ影響を及ぼすことが示唆された。軽度認知障害の疑いのある高齢者に対する地域での関わりが、認知機能の低下を予防する可能性があるのではないかと考えられた。今後もこのような活動を継続して行うことが重要であると思われた。

足関節・足部スポーツ傷害のアスレティックリハビリテーション

○高司 博美

医療法人 大場整形外科

足関節捻挫・靭帯損傷はスポーツ外傷の中で特に多い疾患で、後遺症や二次的な障害も起こりやすく、アスレティックリハビリテーションは必須と考えられる。

炎症がおさまり次第、足関節のストレッチ、筋力トレーニング、足趾タオルギャザーによる固有受容覚への機能回復訓練を行う。併行して患部外トレーニングも行う。その後、テーピングやサポータで靭帯を保護した上で、バランストレーニング、スポーツ復帰へと進めている。

スポーツ障害として多いのが中足骨疲労骨折である。確定診断がついたら、足底板を装着し、アーチ機能や足関節の機能を改善し、障害につながる個体要因を改善し、スポーツ復帰へと進めている。疲労骨折に関しては、管理栄養士の栄養アドバイスも行い、早期治癒、再発防止につなげている。

スポーツ傷害に対し、より良い状態で復帰できるよう、また患者のニーズに応じていくための当院での取り組みも報告する。

発達運動学的視点からの
「こどもの体幹トレーニング」
～赤ちゃんの動作で、
体の支えと動きの土台を強くする～

○西原 清

宇佐整骨院

ヒトの運動能力の発達は、乳児期の仰臥位から立ち上がるまでに体幹や四肢の姿勢や動きの「基本機能」を獲得し、幼児期に「基本動作」や「複雑な動作」を習得する。更に学童期では「複雑な身体活動」を習得しスポーツなどの複雑な運動が可能となる。しかし社会環境や生活環境などの変化により、乳児期の「基本機能」の獲得や幼児期の「基本動作」の習得に不足が生じており、このことがこどもの運動能力を低下させることに大きく関連している。

そしてこどもの運動能力の改善を目的として多くの取り組みが行われている。そのひとつとして幼少期からスポーツを行うことで解決しようとすることも進められているが、運動能力の改善の為に発達過程で不足している「姿勢や動きの基本機能」や「基本動作」などを、スポーツ競技以外の適切な運動で補うことの必要性を認識すべきであると考えます。

筆者はこのような考えを基にして、長年こどもの運動能力の改善を目的にした体づくりの指導に取り組んでいる。指導内容としては①動くために重要な体幹や四肢の質の良い「支持」の習得を目的とした、赤ちゃんが仰臥位から立ち上がるまでの動きを再現した赤ちゃんトレーニング（以下赤ちゃんトレーニング）②体幹トレーニング③コーディネーショントレーニング④他のトレーニングなどを行っている。

赤ちゃんトレーニングの理論背景は、DNS（動的神経筋安定化）やJCCA（日本コアコンディショニング協会）の発育発達のメソッドやPRIによる呼吸の要素などを考慮して、発達運動学的に支持点や姿勢や動きなどのポイントを指導している。そして効果を上げる為には、腹部・胸部の安定性の向上が非常に重要であり、このことは骨盤・胸部・脊柱・四肢の連動した支持や可動性を含め、運動能力を改善させる効果に非常に大きく影響する。

本報では赤ちゃんトレーニングの概要と腹部・胸部の安定の重要性について紹介する。

大分県スポーツ学会認定スポーツ救護
ナース・救護員養成システムの現況

○栗秋 良子、小副川 直子、佐藤 浩二、
森 照明

社会医療法人敬和会 大分岡病院

【目的】

我々は2010年に一般社団法人大分県スポーツ学会を設立し認定スポーツ救護ナース・救護員を養成し、スポーツ現場に派遣してきた。2年後にオリパラを控え、スポーツ救護養成が喫緊の課題となっている。我々の養成システムの現状を紹介する。

【方法】

本講習会は、今期から2日間連日15時間のプログラムとした。救護に必要な実践知識と手技及び日赤の救命救急基礎講習で構成されている。試験合格後、スポーツ現場に派遣、年一回スキルアップ研修会も実施している。

【結果】

2017年第8期生までに計731名を養成、29年度の派遣依頼は39団体219名を派遣した。平成25年4月から平成30年3月までの派遣総延人数は1534名である。

【考察】

スポーツ全般の知識を修得し、救護の適切な判断処置が出来る人材を育成する、夢と展望のある本システムをさらに発展させたいと考えている。

スポーツ救護活動における 看護師としての関わりの検討

○小原 優希

大分県スポーツ学会認定 スポーツナース
日本健康運動看護学会認定健康運動看護師

【目的】

救護日誌を用いてスポーツ救護活動を具体化し、看護師の役割を考察する。

【方法】

- ①救護日誌を作成し実際に活用することで、活動を具体化する。
- ②日本健康運動看護学会認定健康運動看護師を取得し、看護の視点から現状と今後の課題を考察する。

【結果・考察】

現状の派遣救護記録は、派遣場所、競技団体名、競技種目、救護内容と大きい項目だけであった。救護日誌を作成することで現場の状況や対象の情報など詳細に記載され、振り返る際にわかりやすくなった。また健康運動看護師の資格を取得することで、看護師として、対象の発達段階や健康レベルを考慮した関わりができるようになり、日誌からも看護がみえるようになった。しかし、事前のアセスメントや活動中の記録など記述欄が増えたことで負担が増大している。そのため今後は、誰もが活用できるようなパスを作成し、派遣救護記録をツール化することで負担軽減と効率化を検討していきたい。

若年アスリートの胸郭出口症候群に おける短期術後成績

○西崎 武文¹⁾、馬見塚 尚孝²⁾、稲葉 墨希¹⁾、
藤原 崇光¹⁾

独立行政法人国立病院機構 西別府病院
1) リハビリテーション科、2) 整形外科

【目的】

若年スポーツ選手の胸郭出口症候群に対する第1肋骨切除術および内視鏡下神経剥離術の手術成績を明らかにする。

【方法】

平成28年4月から平成30年8月までの期間に、当院で胸郭出口症候群の診断にて第1肋骨切除術および内視鏡下神経剥離術を施行した若年スポーツ選手13例（平均年齢：17.3歳）を対象とした。競技の内訳は野球が10例、水泳1例、ソフトテニス1例、器械体操1例であった。調査はThe DASHを用いて術前と術後の比較を行った。また、アンケートにて治療満足度を調査した。

【結果】

術前の状態と比較し、症状、生活動作、競技レベルともに改善が認められた。治療満足度も概ね高い満足度が得られた。

【結論】

若年スポーツ選手の胸郭出口症候群に対する手術療法が有効であることが示唆された。今後は症例数の蓄積、保存療法との比較などが必要である。

本校の障がい者スポーツへの 取り組み紹介

○日隈 武治、後藤 英子、矢野 高正、
首藤 小春、吉岡 恭介、岩田 美沙都

大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科

【はじめに】

本校は障がい者スポーツ論を履修科目とし、障がい者スポーツ指導員初級指導員を取得できる。今回、障がい者スポーツへの関わり紹介と卒業生の取組状況を報告する。

【紹介】

当該教科は、平成24年度より取入れ、平成29年度に単位履修科目に位置づけた。内容は講義と実技で構成している。

【対象】

卒後4年未満の95名とした。

【方法】

アンケート方式で調査し、「現在の障がい者スポーツへの関わり」や「資格更新」などの7項目とした。

【結果】

障がい者スポーツ活動をしていない者は73名（98.6%）、初級指導者の資格更新をしていない者は65名（87.8%）。今後、障がい者スポーツに関わりたい者は58名（78.4%）であった。

【考察】

障がい者のスポーツは、競技や生涯スポーツとして生活の質向上を期待する貴重な参加である。調査で、「今後、関わりたい」等が過半数となり、今後、活動の機会が広がる取組をしたい。

障がい者スポーツへの 関わりと今後の展望

○宮野 元樹

公益社団法人 大分県理学療法士協会
医療法人恵愛会 中村病院

大分県では障がい者スポーツ競技が盛んに行われているが、公益社団法人大分県理学療法士協会（以下、PT協会）のこれまでの関わりとして、健常スポーツと比べるとサポート件数やそれに関する研修も少なく、体制としても整備されていないのが現状である。

現状を打開すべく、PT協会員向けの研修会や障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催し、情報発信を継続していくことで協会の関心を高め、機運醸成を図っていきたい。また、協会内での障がい者スポーツ部門の整備を行い、中・長期的な計画性を持って障がい者スポーツに対応できる人材育成と人材派遣システムを構築していきたいと考える。

我々の活動がスポーツを通じて、少しでも障がい者の健康維持・増進だけでなくQOLの観点から自立支援や社会復帰への支援に繋がれば幸いである。そして、障がい者が安全にスポーツを楽しめる環境づくりに向けてのサポートを他団体と協力しながら取り組んでいきたい。

5回スポーツ研修会 活動報告

○大津留 聖太、古澤 朋佳、小松 由佳、
後藤 英子

公益社団法人 大分県作業療法協会 学術局 学術研修部

作業療法士は、「作業」を支援や目標達成の手段として提供することでその人らしさを引き出し、「人と人」を結び、場を作り、地域生活へとつなぐ専門職である。本事業は、作業療法士自身が体験を通してスポーツを対象者の健康増進や「活動」と「参加」の支援手段として活用できるようになることを目的に平成26年度より実施している。

今年度は昨年度に引き続き、障がい者スポーツについての講義とボッチャ、ツインバスケットボールの体験を行った。これらを通して、心身機能、活動能力、そして社会参加の維持に有効なユニバーサルスポーツを実行するための環境調整を支援することで、その後の人生や生きがいにまで様々な可能性を広げることができることを実感できた。

今後は、「こころとからだのリハビリテーション」を行う専門職としてスポーツを実際に参加の支援に用いる段階を目指して、本事業を更に充実したものにしていきたいと考える。

小学生における運動部・スポーツクラブ所属の有無と体幹保持機能との関係

○河野 吉喜¹⁾、東恩納 玲代²⁾、高司 博美¹⁾、
大場 俊二¹⁾

1) 医療法人 大場整形外科
2) 名桜大学

【目的】

本研究では、小学生を対象として運動部・スポーツクラブ所属の有無と体幹保持機能との関係を検討することを目的とした。

【方法】

対象者は、平成30年に大分県の公立小学校に在籍する小学4年生から6年生までの282名とした。体幹保持機能は、フロントブリッジ、サイドブリッジ、バックブリッジの保持時間を測定した。

【結果】

年齢とローレル指数を調整し、運動部・スポーツクラブ所属の有無で体幹保持機能を比較した。男女ともにサイドブリッジ（男性： $p<0.01$ 女性： $p<0.01$ ）とバックブリッジ（男性： $p<0.05$ 女性： $p<0.05$ ）は運動部・スポーツクラブ所属者が有意に高い値を示した。

【結論】

運動部・スポーツクラブ所属者は無所属者と比較してサイドブリッジおよびバックブリッジの保持機能が高かった。

スポーツ障害予防の取り組み ～メディカルマネージャー制度を大分県 から全国へ～

○伊東 健太、藤野 毅、中村 友、川野 達哉、
相馬 大樹、大場 俊二

医療法人 大場整形外科
大分スポーツリハビリテーションセンター
一般社団法人 大分県スポーツ学会

【目的】

メディカルマネージャーとは、スポーツ障害を防止することを目的として、選手の健康管理、指導者やコーチのサポート、スポーツ現場と医療機関との橋渡しをすることを役割としている。保護者を始め、医療関係者や監督・コーチなど幅広い方を対象としている認定資格である。

【方法】

大分県サッカー協会、大分県スポーツ学会会員および大分県体育協会加盟競技団体を主な対象とし、Mマネの説明・案内を送付し講習会を行った。また、スマートフォンやタブレット端末にて簡易的に入力することの出来るシステムを今年度より本格的に運用していく。

【結果・考察】

スポーツ障害を防止するために医療関係者やトレーナーなどが多くかかわってきている昨今、いまだ小中学校などには障害予防の取り組みがなされていないのが現状である。そこに、このMマネ制度を導入することで、医師やトレーナーがいなくても、ある程度のスクリーニングができ相談ができるシステムになれば、スポーツ現場と医療機関との橋渡しになるのではないかと期待する。

当院における腰椎疲労骨折と 腰椎分離症の発症率の比較

○石田 直也、藤野 毅、大場 俊二

医療法人 大場整形外科

【はじめに】

成長期腰部スポーツ障害として、腰椎疲労骨折（以下LSF）が代表疾患としてあげられ腰椎分離症へ移行する。そこで、腰痛を主訴に当院を受診したスポーツ選手の中で、LSFと腰椎分離症の割合について検討した。

【対象】

2015年4月から2017年3月までの2年間に腰痛を主訴に当院を受診した成長期（18歳以下）の患者736例（平均年齢：14.3歳）を対象とした。

【結果・まとめ】

成長期の腰痛患者の中でLSFを疑い理学所見や、単純X線所見からLSFを疑いMRI検査を行ったのが539例、そのうちLSFと診断したのが255例（34.6%）であり、47例（6.4%）が腰椎分離症へ進行していた。また、MRI検査を行っていない腰椎疾患198例のうち、腰椎分離症は17例（2.3%）であった。結果より、今回のLSFと腰椎分離症の患者の特徴について報告する。

大分県立看護科学大学「健康増進プロジェクト」の活動について

○稲垣 敦

大分県立看護科学大学

前身の「野津原プロジェクト」は開学の翌年1999年に生まれ、地域における健康増進システムの確立を目指して、健康増進に関する研究と地域貢献活動を行ってきた。野津原町や姫島村の研究（厚生労働省、慶應大）、脳卒中患者用の電気刺激装置（東九州メディカルバレー）、大分空港施設改善（大分県）、保健師活動支援システムや高齢者用機能食品（ヤクルト）を研究開発した。また、介護予防運動「お元気しゃんしゃん体操」（大分市）、「めじろん元気アップ体操」（大分県）を開発・指導し、介護予防運動指導者や体力チェックサポーターを養成した。さらに、森林セラピーロード（大分市）や森林セラピートレイルランニング大会運営に協力し、森林歩行の効果検証実験や車椅子用の「森のセラピーロード」（大分県）に協力した。このほか、学生と県内30箇所以上に伺い、毎年3,000名以上の健康・体力チェックを実施してきた。

スポーツ救護ナース・救護員派遣調整の現況

○小副川 直子、栗秋 良子、佐藤 浩二、森 照明

社会医療法人敬和会 大分岡病院

【目的】

一般社団法人大分県スポーツ学会はスポーツ救護ナース・救護員養成、派遣システムに取り組んでいる。派遣調整については兼任業務や、煩雑な調整作業などが課題であった。今回、派遣システムを改良し、さらに迅速、効率化された現況を報告する。

【方法】

派遣募集について、2015年12月よりメルマガによる募集を開始した。翌年4月に学会ホームページをリニューアル、その後メルマガと応募フォームを連動し、システム化した。

【結果・考察】

メルマガについて初回配信時は24.0%の認定者へ配信した。システム改良を経て2018年には70.4%に増加した。救護派遣についても、募集人数は前年比152%で増加し、派遣調整率は96.1%と高水準を保っている。

本養成、派遣システムは、現場から好評を得ており今後もスポーツ救護の需要は増えると予測している。本システムもさらに作業の効率化と生産性の向上を図り、貢献したいと考えている。

2泊3日の高地野外活動を通じた学生の 心理、行動の変化 データマイニングによる評価

○小池 貴行、岡内 優明、前田 寛

大分大学 理工学部 福祉メカトロニクスコース

【緒言】

本研究では、本学開講のスポーツ文化科学「キャンプの理論と実践」を履修した学生28名の野外活動を通じた心理・行動の変化を定量かつ定性的に検証した。

【方法】

本科目は8月下旬に九重町飯田高原にて2泊3日で行われ、学生らは7名ずつ班に分かれ自らテント設営、調理、後片付け等の運営を行った。中日には牧の戸峠から中岳へ登山をした。これら活動を経た心理状態の調査では、SD法に基づき心理印象を表す形容詞とその対義語からなる34項目に回答させ、その後、主成分分析（PCA）により主な変化があった項目を抽出した。また、本科目の最後にキャンプで得た事を文章で回答させた後、各文章の趣旨を基に複数のカテゴリーに分けた。

【結果と考察】

PCAから「心身の活発化」が、カテゴリーから「仲間との協力」、「主体性」、「不便さ」が主に挙げられた。この結果から、学生らは、不便な状況でも仲間と協力して行動すれば乗り越えられることを体得したと考えられた。

名義後援

大分県教育委員会

公益財団法人 大分県体育協会

一般社団法人 大分県医師会

公益社団法人 大分県看護協会

公益社団法人 大分県薬剤師会

公益社団法人 大分県栄養士会

公益社団法人 大分県理学療法士協会

公益社団法人 大分県作業療法協会

公益社団法人 大分県柔道整復師会

一般社団法人 大鶴歯科医師会

一般社団法人 大分県サッカー協会

大分県障害者スポーツ指導者協議会

独立行政法人 国立病院機構 西別府病院

社会医療法人敬和会 大分岡病院

大分スポーツリハビリテーションセンター

大分合同新聞社

OBS大分放送

TOSテレビ大分

OAB大分朝日放送

NEC歩行・立ち姿勢測定システム

好評取り扱い中！！

※NECソリューションイノベーター社製

- 1 3Dセンサーに向かって歩くだけで「歩行時の姿勢」を測定
身体にマーカーなどを身に付けず、3Dセンサに向かって歩くだけで、簡単に測定可能
- 2 歩行測定結果は年齢と性別に応じた基準点で点数化
※株式会社アシックス スポーツ工学研究所開発の歩行姿勢評価基準に基づき算出
- 3 歩行測定過去データを利用した身体の変化を確認
- 4 直立した状態で肩、腰など体の歪み「立ち姿勢」を測定



Copyright © NEC Solution Innovators, Ltd. 2014-2017. All rights reserved.

お問い合わせ先



テレビ宮崎グループ
株式会社システム開発 大分支社
〒870-0025
大分市顕徳町1丁目14-1河邊ビル103
TEL097-538-6163

AIR SALONPAS

スポーツ時の
筋肉痛、筋肉疲労に



Hisamitsu®



ジェット噴射で、冷却力アップ 微香性で、においダウン
エアースロンパス®ジェット^α

筋肉痛・筋肉疲労に **第3類医薬品**

※当社エアースロンパスEX比

◎この商品に関するお問い合わせは、久光製薬お客様相談室へ。☎ 0120-133250
受付時間／9:00-17:50(土日・祝日・会社休日を除く) www.airsalonpas.jp





株式会社 **オリエンタル歯科器材**
HENRY SCHEIN®

本社	大分市今津留3丁目16-18	〒870-0938	TEL 097(558)7507	FAX(551)5731
福岡支店	福岡市博多区東光寺1丁目25-18	〒816-0096	TEL 092(436)7230	FAX(436)7231
北九州営業所	北九州市八幡西区丸尾町12-12 グリーンコート101号	〒807-0826	TEL 093(692)5899	FAX(647)5811
延岡営業所	延岡市緑ヶ丘3丁目6-9	〒882-0863	TEL 0982(35)0531	FAX(35)0705
熊本営業所	熊本市東区昭和町1-19	〒861-2108	TEL 096(360)7008	FAX(360)7018
長崎営業所	諫早市貝津町828-1	〒854-0063	TEL 0957(25)4362	FAX(25)4542
宮崎営業所	宮崎市恒久4丁目8-3	〒880-0913	TEL 0985(64)0975	FAX(64)0958
鹿児島支店	鹿児島市草牟田2丁目3番5号	〒890-0014	TEL 099(248)8620	FAX(248)8630

感動を、シェアしたい。

やりきること。挑戦すること。諦めないこと。
そして、地域の皆さまやお客さまと、
その発展・成功を共に喜び、
「大分銀行で良かった」と感動して頂くこと。
それが私たちの、感動です。

 **大分銀行 明野支店**



まだないくすりを
創るしごと。

明日は変えられる。



アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/

関節機能改善剤

(処方箋医薬品) 注意—医師等の処方箋により使用すること

日本薬局方 精製ヒアルロン酸ナトリウム注射液

アルツ® 関節注25mg

アルツ® ディスポ® 関節注25mg



 **生化学工業株式会社**
東京都千代田区丸の内一丁目6-1

発売元〔資料請求先〕

 **科 研 製 薬 株 式 有 限 公 司**

〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8

医薬品情報サービス室

(2016年9月作成) ARZ04GK

- 薬価基準収載
- 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
使用上の注意等については添付
文書をご参照ください。



漢方医学と西洋医学の融合により、世界で類のない最高の医療提供に貢献します



<http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

バイオでしか、
行けない
未来がある。

すべての革新は患者さんのために

 **中外製薬**

 ロシュグループ

創造で、想像を超える。



歯科材料・歯科器械ディーラー



フォルディ株式会社



「そう、そう！
これが欲しかった。」

そんな歯医者さんのお悩み、解決します。

フォルディ株式会社 歯科医院・歯科技工所を中心に医療機器ならびに歯科材料の販売（左記器材の保守・修理業務（専任担当者）各種セミナーの開催／歯科医院でご使用になる備品等の販売／開業・改装・移転等のお手伝い）

大分営業所	〒870-0848 大分市賀来北 1-17-7	TEL 097-549-0588 / FAX 097-549-2070
宮崎営業所	〒880-0035 宮崎県宮崎市下北方町下郷 6066 時任ビル 1F	TEL 0985-24-7034 / FAX 0985-27-0282



Sports Pharmacist
スポーツファーマシスト

ドーピング禁止薬についての質問は、 薬剤師会にお問い合わせ下さい！

日本アンチ・ドーピング機構の認定薬剤師
スポーツファーマシストがお答えします。

【問い合わせ先】
大分県薬剤師会 薬事情報室
TEL：097-544-9512
FAX：097-544-8060



公益社団法人大分県薬剤師会

Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、
より豊かな“暮らし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、
次の時代へ大胆に伝えていくために一。

私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

AsahiKASEI

旭化成ファーマ株式会社

URL:<http://www.asahikasei-pharma.co.jp>

一般社団法人 大分県スポーツ学会
第10回学術大会
プログラム

発行日：2018年12月16日

主 催：一般社団法人大分県スポーツ学会 理事長 稲垣 敦

大会長：公益社団法人大分県作業療法協会 会長 高森 聖人

事務局：大分県スポーツ学会第10回学術大会事務局
大分スポーツリハビリテーションセンター 担当：中村・牧
〒870-0165 大分市明野北1-1-11 TEL097-574-5132 FAX097-574-5133
E-mail oitakenspo@yahoo.co.jp Homepage <http://oitakenspo.jp/>

印 刷：有限会社中央印刷
〒870-0025 大分市顕徳町2丁目2-38
TEL 097-532-3805 FAX 097-533-7779

